2019 年度第 2 回支部研究部例会

2020．6．　13

大阪保育運動センター＆WEB（zoom）上

子どもも教師もやりたくなる授業づくり②

－３年生のフラッグフットボール
・４年生の跳び箱実践から学ぶ－

○第２回の支部研究部例会について

昨年度から「子どもも教師もやりたくなる授業づくり」というテーマで研究を進めてきました。このテーマになって２年目になります。昨年度の１回目の支部研究部例会資料の冒頭で研究部の活動について次のように書いています。

「限られた研究部の例会や会議等で十分学びを深めたり、実践を集団的に創造したりしていくことは難しいことです。ましてやますます多忙化する現場の中で、研究部のメンバーもふくめ『何かを明らかにしていく例会』は敷居が高く、それより『そこへ行けば授業や教育について何か学び取れたという実感のある例会』の必要性も感じ、研究部例会の刷新に取り組んできました。つまり、『研究テーマを意識はするが、取りあえずやってみた実践を大切にしていく』とか『テーマを深めるのに聞いておきたい話を講師を呼んで聞く時間をとる』などです。」

さらに「『自分がこれからやる』授業を素材にし、先行する実践例などから学びながら『計画ー実施』していき、『実践報告』という形で例会にのせる。そのことで総合的（一つ一つは深くないが）に『教材について』やその背景としての『文化論的視点』、さらには『子どもの捉え方』等を学んでいけるような支部研究（例会）を目指したいと考えました。そして、このコンセプトで、昨年度から全４回にわたって支部例会が行われました。若い会員、ベテラン会員共々実践を通して交流したいと考えています。

今回の実践は、昨年度に続き、中村俊介先生のフラッグフットボールと、研究部員ではありませんが、中河内ブロックの窪田先生の跳び箱実践です。中村先生の実践は、2018 年度の５年生での実践に引き続き３年生を対象に行われました。コロナの影響で十分な実践にならなかったでしょうが、2018 年度にやり残したことに再度チャレンジしたい、さらに「次の一手」へのヒントをつかみたい、という気持ちでの報告です。窪田先生の実践は、「一瞬を一瞬で終わらせない跳び箱の指導」と銘打っての実践です。跳び箱を単技の表現としてではなく、連続技として表現できないかという考えを持ち、「つなぐ」ためにどうすればよいかを子どもたちが考え、「ひねり横跳び越し」というとび方を導き出しています。また、方形マットに跳び箱を置くという先行実践から、つなぎと連続技を意識して子どもたちと学習をすすめました。しかし、「跳び箱としての教育内容は？」と問うた時、どのような答えが返ってくるのか…。その点も含め、参加者で検証していきたいと思います。

昨年度は、「ひとまずやってみて、その意義を問う」というある意味「大阪らしい」特徴（やってから考える）が出ていたように思われます。そして、何よりもどの参加者も例会の内容に参加できる、という筋道が「実践を通して考える」というところからできていったのではないかと思われます。今年度も継続して「実践を研究の土台にのせる」というやり方で研究を進めていきます。また、今回は、コロナ禍の影響で WEB による参加という新しい試みも行われることになりました。WEB でどの程度できるのか？また、よりよい方法は？など、今後の検討材料になることも視野に入れて進めたいと思います。

【日　程】

前半	司会　（古川）	記録　（日名）※チャットによる
１４：００～１４：３０	３年生のフラッグフットボール実践経過報告（中村）	
１４：３０～１４：３５	休憩	
１４：３５～１５：０５	質疑・討議	
１５：０５～１５：１５	休憩	
後半	司会　（楠橋）	記録　（日名）※チャットによる
１５：１５～１５：４５	４年生の跳び箱実践報告（窪田）	
１５：４５～１５：５０	休憩	
１５：５０～１６：２０	質疑・討議	
１６：２０～１６：３０	まとめ＆挨拶（感想文）	

☆「フラッグフットボールについて」（楠橋）、「跳び箱の教育内容を考える」（安武）などの資料は、あらかじめ読んでおいてください。また、実践報告用の資料は、プリントアウトするなど手元で見られるようにしておいてください。

第２回支部例会感想文用紙	氏名（　　）